



---

政治専攻「演習1」  
第1期第1次募集

---



## 【目次】

1. 募集について	1 頁
2. 募集に関する注意事項	2 頁
3. 選考方法	3 頁
4. ゼミ内容	5 頁
➤ 稲垣 浩先生	5 頁
➤ 上神 貴佳 先生	6 頁
➤ 小原 薫 先生	7 頁
➤ 菊田 真司 先生	8 頁
➤ 坂本 一登 先生	9 頁
➤ 佐藤 俊輔 先生	10 頁
➤ 芝崎 祐典 先生	11 頁
➤ 藤嶋 亮 先生	12 頁
➤ 宮下 大志 先生	13 頁
➤ 羅 芝賢 先生	14 頁

# 1. 募集について

## 【募集スケジュール】

第 1 期 第 1 次 募 集	
応 募 期 間	2022年10月7日（金）正午～10月21日（金）12時50分
選 考 期 間	2022年10月22日（土）～10月28日（金）
合 否 発 表	2022年10月29日（土）20時予定 K-SMAPYIIにて

※第1期第2次募集の実施は第1期第1次募集の応募状況によって決定します。実施する場合、すべての教員に応募できるとは限りませんので、予めご了承ください。

第 1 期 第 2 次 募 集	
応 募 期 間	2022年10月31日（月）正午～11月7日（月）12時50分
選 考 期 間	2022年11月8日（火）～11月12日（土）
合 否 発 表	2022年11月14日（月）20時予定 K-SMAPYIIにて

※第1期第2次募集において、全1年生が登録できていない場合に限り、未確定者を対象に第1期第3次募集を行います。

## 【応募方法】

### **K-SMAPYII** より

※ログイン後、上部バナー「アンケート」より応募してください。

※K-SMAPYIIからの応募がなく面接を受けるまたは課題提出だけをしているケースがありましたので必ずK-SMAPYIIからの応募も行ってください。応募がない場合は無効になります。

## 2. 募集に関する注意事項

- (ア) 上記の募集期間に必ず応募してください。応募期間外の応募は認められません。
- (イ) K-SMAPYIIからの応募がなく、面接を受ける、または課題の提出だけをしているケースがありましたので、必ずK-SMAPYIIから応募も行ってください。
- (ウ) 担当教員によって選考方法（面接・レポート・テストなど）は異なります。「選考方法」で必ず内容を確認の上、応募するようにして下さい。
- (エ) 毎年ありますが、提出期限を超えたりレポートの提出は認められませんし、面接時間への遅刻・面接の欠席に関する取り次ぎはいたしません。
- (オ) 政治専攻では、同一年度に複数ゼミを受講することが出来ます。2つ目のゼミを希望する場合には11月に行われる**第2期募集**で応募できます。
- (カ) ゼミに合格後、他のゼミへの変更はできません。
- (キ) 各教員の連絡先は個人情報のため、お教えできません。
- (ク) ゼミ応募に関する問い合わせ先は以下のとおりです。

### 【問い合わせ先】

教務課	①9時～12時50分 ②13時50分～20時30分
法学資料室（若木タワー7階）	①9時～17時

※月曜日～金曜日で受け付けます。

※日曜日・祝日は学年暦に準じ、授業実施日に限り開室いたします。

### 3. 選考方法

希望する教員の選考方法を確認してください。

例年、レポートの提出期限や面接日時を間違えているケースがありますので、ご注意ください。

教員名	選考方法	提出方法・レポート締切日時	レポート内容	備考
		面接日時	面接教室	
稲垣 浩	レポート	メール送付 inagakih@kokugakuin.ac.jp 10月21日（金）12時50分	① 最近気になった自治体の多文化共生に関する話題 ② 本ゼミへの志望動機	（書式）A4用紙 （40字×36行） （字数） 題目①500字以上 800字以内 題目②300字程度
	面接	10月25日（火） 14時30分～	若木タワー8階 0807 研究室	
上神 貴佳	レポート	K-SMAPY II アンケート画面で回答 10月21日（金）12時50分	本演習を志望する理由 <u>（メールアドレスを記入すること）</u>	（書式）自由 （字数）1,000字
	面接	10月24日（月） 17時00分～17時30分	オンライン	
小原 薫	レポート	面接時持参	小原ゼミを志望する志望理由と最近関心のある政治、社会の問題について	（書式）自由 （字数）600～800字
	面接	10月25日（火） 12時00分～12時50分	若木タワー8階 0801 研究室	
荻田 真司	レポート	面接時持参	「自己紹介」+「ゼミの志望理由」	（書式）Word形式・A4 （字数）800字程度
	面接	10月28日（金） 12時10分～	若木タワー7階 0712 研究室	
坂本 一登	レポート	メール送付 kazutos@kokugakuin.ac.jp 10月21日（金）12時50分	志望理由と最近関心をもった政治的話題	（書式）自由 （字数）1,000字程度
	面接	10月24日（月） 16時20分～17時20分	若木タワー7階 0705 研究室	

教員名	選考方法	提出方法・レポート締切日時	レポート内容	備考
		面接日時	面接教室	
佐藤 俊輔	レポート	メール送付 s.sato@kokugakuin.ac.jp 10月21日（金）12時50分	①この演習を志望する理由 ②現在関心を持っている国際関係の課題、事象について	（書式）A4・横書き Wordファイル形式 （字数）1,500字以上
芝崎 祐典	レポート	面接時持参	(1)ゼミ志望理由 (2)勉強の中で今まで最も関心を持ったこと	（書式）Word （字数）800～1,000字
	面接	10月27日（木） 18時00分～	3302教室 ※10月19日（水）追記	
藤嶋 亮	レポート	メール送付 rfujishima@kokugakuin.ac.jp 10月21日（金）12時50分	簡単な自己紹介、ゼミの志望理由、関心のある政治・社会問題について	（書式）自由 （字数）それぞれ400字程度、計1,200字 <u>必ず連絡がつくメールアドレスをレポートに記載してください</u>
	面接	10月25日（火） 13時30分～16時30分	オンライン	
宮下 大志	レポート	メール送付 miyashita@kokugakuin.ac.jp 10月21日（金）15時00分	現在の日本の政治をどう評価するか	（書式）自由 ただしWordファイルかPagesファイルでメール添付提出 （字数）1,200字
	面接	10月22日（土） 13時00分～	若木タワー8階0810研究室集合	
羅 芝賢	レポート	メール送付 j-na@kokugakuin.ac.jp 10月21日（金）12時50分	①これまで読んだ政治・行政に関する文献の中で、最も興味深かったものとその理由 ②ゼミの志望理由	（書式）A4・Word （字数）800～1,000字

[【目次に戻る】](#)

## 4. ゼミ内容

[【目次に戻る】](#)

教員名	稲垣 浩
演習テーマ	行政・地方自治・地域社会の動態分析
演習内容	<p>このゼミは、文献の講読や実地調査などを通じて、行政・地方自治の現状や動態に迫ろうとするものです。2022年度は、地方選挙、公務員試験、アートによるまちづくり、リノベーションまちづくり、地方議員の実態など、身近な地方自治・地域社会に関する文献を読んできました。また、北海道のまちづくりについて現地の方とオンラインでお話を聞いたほか、川越市、横浜市、小山市、北九州市、那覇市での学生による現地調査・まちあるきなど、コロナ禍の中、可能な範囲で全国の「現場」での学びも大切にしています。</p> <p>2023年度も、2022年度と同様、前期は全員で行政・地方自治に関する図書や論文を読み、報告者による発表、ゼミ生全員にコメントペーパー（A4 1枚程度）の提出、ディスカッションを行います。夏休みから後期にかけては、各自の関心に基づいて研究テーマを設定し、それらについて調査・研究した内容を論文にまとめます。夏休み中には、自治体等の視察を含めた合宿や、学期中の他大学との合同ゼミなども行うほか、一年を通じてまちあるきや自治体へのインタビューなどを可能な範囲で行う予定です。</p> <p>フィールドワークや取材など、外部との接触が多くなることが予想されますので、外部の方々に礼儀正しく接することができる学生、またはそれらの能力を高めたいと考える学生を求めます。また、他者とのディスカッションができる学生を求めます。</p> <p>課題レポートには、取り上げる多文化共生に関する話題が「なぜ」気になったのか、応募者のプライバシーや個人情報を過度に犠牲・露出しないう程度で具体的に明記してください（題目①）。また、志望動機を300字程度で記入して下さい（題目②）。</p>
教科書	授業中あるいは授業前に適宜指示する。
参考文献	<p>中野邦彦・本田正美（2021）『地域研究ハンドブック』勁草書房      磯崎・金井・伊藤（2020）『ホーンブック地方自治（新版）』北樹出版      曾我謙悟（2019）『日本の地方政府』中公新書      辻陽（2019）『日本の地方議会』中公新書 など</p>
備考	<p>上記の参考文献は、基礎的な知識となる行政・地方自治の現状を知るための参考文献です（講読する文献とは限りません）。</p> <p>選考は応募していただいたレポートと面接によって行います。面接は、基本的に10月25日にオンラインで行いますが、応募者と事前にメールで都合を調整する予定です。そのため、提出するレポートに連絡先となるメールアドレスを必ず記載し、こちらから送付するメールを必ず確認するようにしてください。</p>

[【目次に戻る】](#)

教員名	上神 貴佳
演習テーマ	歴史としての平成と日本政治
演習内容	<p>平成も約30年をもって、令和という新たな時代を迎えることになった。歴史としての平成一をどのようにとらえればよいのだろうか。とくに昭和との関連で平成の政治や経済、社会の課題を理解することを試みつつ、次の時代を展望してみたい。</p> <p>近年、平成一を振り返るさまざまな書籍が出版されている。本演習の教科書としては、小熊編（2019年）などを用いることにする。教科書の読破は、受講生に求められる最低限の課題である。複数のテキストを読み比べつつ、本演習のテーマ（歴史としての平成と日本政治）について、自分なりの理解を得られるように、各自が学習を進めてもらいたい。</p> <p>本演習の進め方については、グループに分かれて、報告班と質問班を交互に担当することを想定している。また、いずれの担当になるかによらず、毎回、参加者全員がレジュメを提出する。演習の最後には、各自が本演習のテーマに沿って、レポートを作成して提出してもらおう。</p>
教科書	小熊英二（編）『平成史【完全版】』河出書房新社，2019年。
参考文献	薬師寺克行『現代日本政治史』有斐閣，2014年。 佐藤優・片山杜秀『平成史』小学館，2018年。 など
備考	



[【目次に戻る】](#)

教員名	小原 薫
演習テーマ	現代日本の政治と思想を考える
演習内容	<p>コロナ禍やロシアによるウクライナ侵攻と様々な出来事が起こる中で、日本を取り巻く状況も変化を迎えている。国内では貧富の格差の拡大、高齢化問題、対外的には安全保障問題といった課題が山積の中、日本が進むべき問題について考える。</p> <p>前期は、新書を購読し、日本を取り巻く問題について理解を深めたうえで、討論をする。後期は、参加者それぞれが関心のある問題について調査、研究し、ゼミレポートをまとめる。</p> <p>無断欠席厳禁。意欲的な学生の参加を求む。</p>
教科書	指定しない
参考文献	指定しない
備考	

[【目次に戻る】](#)

教員名	菟田 真司
演習テーマ	「リベラル」とリベラリズムの現在
演習内容	<p>現代のデモクラシーは、リベラル・デモクラシーであると言われます。つまり、リベラリズムとデモクラシーが結びついたものなのです。リベラリズムは、価値の多元性を重視して、価値の選択に関する個人の自由を重視する立場で、広い意味でこの立場に立つ人々のことを「リベラル」と呼びます。「リベラル」は、個人の自由を重視するだけでなく、社会的な公正や弱者に対する配慮などを重要な価値と考えており、20世紀の重要な政治的な立場の1つでした。</p> <p>しかし、現代では、「リベラル」の立場はさまざまな方面から攻撃に晒されています。平等を重視する政策を批判して、経済的な自由に対する制約を解除しようとする動きは1980年代から続いています。現代では、弱者への配慮を否定して移民排斥を主張する集団や、秩序の安定のために市民的自由を制約しようとする動きさえあります。</p> <p>今年度の演習では、「リベラル」の思想的・政治的歴史をたどって、その現代的な状況を明らかにするとともに、「リベラル」の思想的根拠であるリベラリズムの意味を再考してみることになります。</p> <p>演習は、指定されたテキストを読み、担当者が報告した後で、全員で討論する形で行われます。演習参加者は、これに加えて、自分の好きなテーマについて論文を執筆してもらい、論文報告会で報告してもらいます。論文は、基本的に演習時間外に執筆してもらいます。</p> <p>なお、選考にあたっては、議論に積極的に参加する意欲のある人を優先します。</p>
教科書	<p>田中拓道、『リベラルとは何か』、中公新書、2020年</p> <p>吉田徹、『アフター・リベラル』、講談社現代新書、2020年</p> <p>パトリック・J・デニーン、『リベラリズムはなぜ失敗したのか』、原書房、2019年</p> <p>ヘレナ・ローゼンブラット、『リベラリズム 失われた歴史と現在』、青土社、2020年</p> <p>など</p>
参考文献	<p>マイケル・フリーデン、『リベラリズムとは何か』、ちくま学芸文庫、2021年</p> <p>神島裕子、『正義とは何か』、中公新書、2018年</p>
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・面接当日に都合が悪くなった場合には、karita@kokugakuin.ac.jp までメールで申し出てください。質問もこちらのアドレスまで。</li> <li>・「政治哲学入門」を履修済み・履修中・履修予定であることが望ましいです。</li> </ul>

[【目次に戻る】](#)

<b>教員名</b>	<b>坂本 一登</b>
<b>演習テーマ</b>	戦後日本政治の原点をめぐって
<b>演習内容</b>	<p>次年度の演習は、戦後の日本政治の出発点を世界史と日本史を総合した視点から考える。なぜ今も昔も日本の「正義」は世界で通用しないのか、日本人はなぜ自らの手で憲法を起草できなかったのか、なぜ非武装中立や全面講和による平和は実現しなかったのか、このような問題を、戦前期から講和独立までの時期を素材にして考える。日本政治史というと、日本国内の政治に観点を集中しがちであるが、今後の日本にとって重要なのは、日本の政治をつねに国際的な視野あるいは国際的な文脈で理解することである。国際的視野から眺める日本の政治の姿は、通常教科書なので語られるイメージとはずいぶん異なって見えるであろう。</p>
<b>教科書</b>	細谷雄一『歴史認識とはなにか』（新潮選書） 同 『自主独立とは何か 前編』（同上） 同 『自主独立とは何か 後編』（同上）
<b>参考文献</b>	そのつど指示する。
<b>備考</b>	面接時間に出席できない人は、事前にメールで連絡し、相談してください。メールアドレスは、kazutos@kokugakuin.ac.jp です。

[【目次に戻る】](#)

教員名	佐藤 俊輔
演習テーマ	戦後ヨーロッパと国際秩序
演習内容	<p>この授業は、大きく3つの内容を柱として行う予定です。第1の内容は、演習テーマに則った共通文献の輪読です。今年度は「戦後ヨーロッパと国際秩序」と題して、第二次世界大戦以降のヨーロッパを中心として国際政治について研究を行います。現在、ロシアによるウクライナ侵攻は国際秩序に深刻な影響を与えていますが、本演習は第二次世界大戦後のヨーロッパの国際関係や、ドイツ統一など冷戦終焉前後の秩序変動、またそれらの変動の中に生じたヨーロッパ統合の歴史等について広く考察し、知見を深めることを通じて、現在に至るヨーロッパや国際秩序の在り方がどのように形成されてきたのかを考えていきます。</p> <p>第2に、この演習では主に前期の期間を通してグループ研究を行い、履修者の関心に応じた主題を選択して、調査研究・報告を行ってまいります。第3の柱として、演習論文の執筆があります。特に後期の期間には、個々人で関心を持つ国際政治上の主題につき自由に選択してもらい、これに関する研究、また最終的には演習論文の執筆を行ってもらうことを予定しています。</p>
教科書	開講時に指示します。
参考文献	参考文献は上記を予定していますが、変更もあり得ます。詳細は開講時に指示します。 山本健『ヨーロッパ冷戦史』ちくま新書、2021年 アンドレアス・レダー（板橋拓己訳）『ドイツ統一』岩波新書、2020年 益田実・山本健 [編著]『欧州統合史—二つの世界大戦からブレグジットまで』ミネルヴァ書房、2019年
備考	

[【目次に戻る】](#)

<p><b>教員名</b></p>	<p><b>芝崎 祐典</b></p>
<p><b>演習テーマ</b></p>	<p>国際関係論／国際関係史</p>
<p><b>演習内容</b></p>	<p>前期は国際関係論や国際関係史に関する文献を輪読します。割り当て箇所を発表してもらい、それをもとに参加者全員で討議します。読んでもらう課題文献の分量は少なくなく、密度も高いものなので、積極的に勉強したい学生を歓迎します。</p> <p>輪読する文献は年度によって異なりますが、政治、経済、文化、環境などを歴史的視座から論じたものの中から選んでいます。</p> <p>後期は参加者各自が設定した個人研究テーマについての発表や、各自で選択した文献に基づいた報告を中心に行います。個人研究テーマ設定は前期に扱う共通テーマの範囲内である必要はなく、広く国際関係論や国際関係史のなかから関心のあるトピックを自由に探してもらいます。これについて各自がリサーチし、年度の最終に各自の研究テーマをゼミ論（研究論文）にまとめて提出してもらいます。テーマ設定や研究の進め方、論文の書き方などの方法論について随時指導します。</p> <p>（参加人数によっては、後期も文献に基づいた発表を行います。）</p> <p>演習の無断欠席は認めません。</p> <p>ゼミに応募を希望する学生は、以下のレポートを Word で作成して面接時に持参してください。          (1) ゼミ志望理由、(2)勉強の中で今まで最も関心を持ったこと（国際関係論や国際関係史に限らず、何の分野でも良い）：この二つを盛り込んで自由に文章を作成してください。</p>
<p><b>教科書</b></p>	<p>開講時にご案内します。</p>
<p><b>参考文献</b></p>	<p>適宜紹介します。</p>
<p><b>備考</b></p>	

[【目次に戻る】](#)

教員名	藤嶋 亮
演習テーマ	ヨーロッパ政治の変容
演習内容	<p>近年、EUの危機、難民・移民問題、各国におけるポピュリズムの席卷など、ヨーロッパ政治の危機や変動が語られてきましたが、ロシアのウクライナへの軍事侵攻により、文字通り激動の時期を迎えました。このような時にこそ、どのような性格の危機なのか、実際にどのような変化が生じているのか、じっくりと見定める必要があると考えられます。以上のような問題関心から、ヨーロッパ政治の現在地について、歴史的視点や、日本を含めた他の先進民主主義国との比較を重視しながら、その「変容」を跡づけ・位置づけていきたいと思えます。授業の進め方としては、前期はヨーロッパの政治・歴史をテーマとした新書・概説書、後期はヨーロッパ現代政治に関するやや専門的な文献を全員で読み進めます。後期はさらに、参加者が関心を持った個別テーマの報告を行います。また、初回の授業時に、各回の担当班を決定し、第2回目以降、発表と全員が毎回事前に提出するコメントに基づき、内容の確認や検討、討論を行います。取り上げるテキストはいずれも骨太の内容であり、関係するテーマ・領域も多岐にわたりますので、自分なりの関心・問題設定に基づいて、毎回の演習に臨む姿勢が期待されます。</p>
教科書	初回授業時に説明・配布します。
参考文献	イワン・クラステフ『アフター・ヨーロッパ』（岩波書店、2018年） 松尾秀哉他編『教養としてのヨーロッパ政治』（ミネルヴァ書房、2019年）など
備考	

[【目次に戻る】](#)

<p><b>教員名</b></p>	<p>宮下 大志</p>
<p><b>演習テーマ</b></p>	<p>「日本の政治、日本の民主主義、そして日本の未来、どうしよう？」</p>
<p><b>演習内容</b></p>	<p>日本の政治、日本の民主主義、そしてこれからの日本のあり方について論じてみたいと思います。</p> <p>日本の政治と民主主義は、かつては「55年体制」のもと、かわりばえのしない、そしてあまりよくないイメージで見られてきました。しかしみなさんの生まれる10年ほど前、その「55年体制」が崩れ、また日本の政治状況の変化もあって、55年体制の時代とは違う要素も出てくるようになりました。一応、政権交代も起こりましたが、その後「〇〇一強」という状況になって、しかしその後また変化の兆しも見せています。</p> <p>そして社会の状況としては、格差問題、女性の権利の問題などをどうするべきか、問いかけられている状況ではないかと思います。</p> <p>そこで来年度のゼミでは、この日本の政治・民主主義について、どう評価すべきか、今後はどうなるのが望ましいかなどを論じてゆきたいと思います。</p> <p>そしてそのために、過去の日本の政治を検討したり、現在の問題点を考えたり、今後のあるべき姿を議論したり、ということを行なう予定です。</p> <p>そしてその際には、欧米との比較や理論的考察も盛り込めたら、とも考えています。</p> <p>なお、応募者は、「現在の日本の政治をどう評価するか」というテーマで、自分なりの評価を記したレポートを期日までにメール添付で提出してください。もちろん、あなたの政治的指向性で判断するわけではなく、「どれだけ考えているか」を見たいのです。その際、必ずメール本文に応募者の氏名を明記してください。</p>
<p><b>教科書</b></p>	<p>開講時に指定します</p>
<p><b>参考文献</b></p>	<p>必要に応じて紹介します</p>
<p><b>備考</b></p>	<p>面接は、対面での面接としたいと思います。個別面接ですので、全体としては10/22（土）の13:00開始ですが、その時間に集合していただいた上で、個人個人の面接時刻を指定します。面接の日時にどうしても都合がつかない、あるいは開始時間を配慮してほしい（「4限に授業があるのでその前に設定してほしい」など）場合にはレポート提出の際のメールで知らせてください。メールでのやりとりで相談させていただきます。</p> <p>なお、面接は一人15分ほどを予定しています。ですので、応募者が例年になく多くならない限り、当日の対面での面接は遅くとも15時には最後の面接を終えられるかと思っています。</p>

[【目次に戻る】](#)

<b>教員名</b>	<b>羅 芝賢</b>
<b>演習テーマ</b>	エスノグラフィーで読み解く行政
<b>演習内容</b>	<p>「ソーシャルワーカーは情報提供者の役割を果たしてくれる、深刻な社会問題について彼らが持っている知識は私たちが分析すべき素材となると考えていました。ところがこのストリートレベルの官僚たち自身が実は大きな矛盾を抱えていること、深刻な苦しみに悩んでいることに気がつきました」（ピエール・ブルデュー）</p> <p>これまでの政治学・行政学において、聞き取り調査のような個人を対象とする研究は、著名な政治家や官僚といった政治エリートに注目するのが一般的でした。それに対して、一般市民の考えや行動様式を分析する際には、世論調査の結果など大規模なサーベイデータを用いた統計分析が行われるのが主流になってきました。</p> <p>しかし、世の中は、そうした研究だけでは十分に説明できない現象で溢れています。例えば、ソーシャルワーカーや警察官など「ストリートレベルの官僚」と呼ばれる行政職員がなぜ杓子定規に行動するのか、「復興政策」が講じられた被災地に被災者が戻らないのはなぜか、生活保護の受給資格があるにもかかわらずその制度を利用しない人々がいるのはなぜか、食品安全のための規制が書類上でしか守られないのはなぜか、といった疑問に答えるのも、政治学・行政学の役割です。</p> <p>そこで、来年度の演習では、フィールドワークや聞き取り調査を通じて、政治エリートではない一般の人々の考えや行動様式を記録したエスノグラフィーの文献に触れ、そこから見えてくる行政の問題について議論したいと思います。</p> <p>前期は、文献輪読を通じて、報告の仕方、コメントの仕方、参考資料検索の仕方などを身につけることを目標とします。後期は、輪読を完了した後、ゼミ論文の完成を目指して研究を行い、論文報告会を開催します。</p>
<b>教科書</b>	<p>ピエール・ブルデュー『世界の悲惨』（2019年、藤原書店）</p> <p>小熊英二・赤坂憲雄『ゴーストタウンから死者は出ない』（2015年、人文書院）</p> <p>上間陽子『裸足で逃げる』（2017年、太田出版）</p> <p>ティモシー・パチラット『暴力のエスノグラフィー』（2022年、明石書店）</p>
<b>参考文献</b>	適宜紹介します。
<b>備考</b>	資料収集の仕方を学ぶため、国会図書館や公文書館への「遠足」も予定しています。